

Rackspace 社—SUSE® を 使用して複数の Linux プラットフォームを管理およびサポート

Red Hat Enterprise Linux 4 のサポートが終了した際、Rackspace 社は複数の Linux プラットフォームに対応する柔軟なソリューションと、お客様に提供する **Fanatical Support®** の強化を支援してくれるプロバイダを必要としていました。そして、マルチ Linux ディストリビューション機能を提供しているのは SUSE だけでした。



概要

RACKSPACE 社について

Rackspace® Hosting 社 (NYSE: RAX) はハイブリッドクラウドのグローバルリーダーであり、クラウド向けオープンソース OS の OpenStack® を開発したことで知られています。各自の IT ニーズに最適なインフラを整備するために、数多くの企業が Rackspace 社の製品ポートフォリオを活用して、パブリッククラウド、プライベートクラウド、専用サーバ、または複数のプラットフォームを組み合わせるなどして、最適な場所でワークロードを実行しています。同社の受賞歴を誇る **Fanatical Support®** では、最も重要なアプリケーションを構築、導入、実行できるようお客様をサポートしています。Rackspace 社はテキサス州サンアントニオに本社を置き、4 つの大陸でデータセンターを運営し

ています。同社は **Fortune** 誌の **100 Best Companies to Work For (最も働きがいのある会社ベスト 100)** に選出されています。詳細については、www.rackspace.com を参照してください。

課題

Rackspace 社は、自分たちの力ではどうにもならない課題に直面することで、Fanatical Support の提供能力を試されていました。同社は中小企業 (SMB) や大企業を対象にクラウドサービスビジネスを展開しています。お客様の多くは Linux バリエーション (主に Red Hat Enterprise Linux (RHEL)) を実行しています。2012 年 2 月に Red Hat が RHEL 4 のサポート終了を発表した際、Rackspace 社は、このプラットフォームを使用する多くのお客様が困難に直面することになるとすぐに気付きました。他の環境に円滑に移行するためには 1~2 年は必要になるからです。

Rackspace 社は、このようなお客様にパッチ管理などのサポートを提供する必要がありました。同社はお客様のすべての RHEL バージョンの環境設定とパッチ管理に Red Hat Network

「SUSE は柔軟性を備えた理想的なソリューションプロバイダです」

AARON CONKLIN 氏
Rackspace 社
プロダクトマネージャ



Rackspace® Hosting社の概要:

■ 業種と所在地

IT: クラウドコンピューティングサービス、米国

■ 製品とサービス

SUSE Manager
SUSE Linux Enterprise Server with
Expanded Support
SUSE Linux Enterprise High
Availability Extension

Satellite を使用していました。しかし、このツールでは RHEL ディストリビューションにしか対応できません。RHEL 4 ユーザのためだけに新しいパッチ管理ソリューションを追加すれば、システムの数が増え、IT の複雑性とコストが増大します。

そこで Rackspace 社は、オープンソースの Linux 管理ソリューションである Spacewalk に目を向けました。Red Hat Network Satellite は Spacewalk に基づいているため、Spacewalk を使用することですべての RHEL バージョンだけでなく、CentOS (RHEL の無料バージョン)、openSUSE、SUSE Linux Enterprise Server など、その他の Linux パリアントのパッチ管理にも対応できます。さらに、すべてのシステムを単一の画面で管理できます。

しかし Spacewalk にも制限があります。エンタープライズ向けに使用するためには、とりわけユーザインタフェースの開発と調整が必要でした。これには最低でも 18 カ月が必要となるため、RHEL 4 のサービス終了までには間に合いません。また、たとえば特別な機能や環境設定 (Rackspace 社が優れたサポートを提供するために必要とする高可用性環境など) に関するリクエストに対応するためのアドホックのエンジニアリングやサポートがオープンソースコミュニティから提供されることはありませんでした。つまり、Rackspace 社は柔軟なパッチ管理システムと、RHEL 4 を使用するお客様が移行を完了するまでサポートを延長してくれるプロバイダを必要としていたのです。しかも、システムとプロバイダのいずれもが、複数の Linux プラットフォームに対応できるものである必要がありました。

解決法

ソリューションパートナーとパッチ管理システムの特長

Rackspace 社は、規模を問わず、Linux OS の開発に従事するすべての主要組織を検討しました。そして、共通のソリューションパートナーである Microsoft 社が Rackspace 社に SUSE を紹介

したので、SUSE には、複数の Linux ディストリビューションをサポートできるサービス (SUSE Linux Enterprise Server with Expanded Support) も環境設定および管理システム (SUSE Manager) もありました。Spacewalk をベースとする SUSE Manager を使用すれば、Red Hat、Red Hat と同様のディストリビューション、そして独自の OS について、パッチを配信および管理できます。

さらに、SUSE がこの難題に挑む姿勢を見せたことも決め手となりました。「SUSE 以外のほとんどの企業はこの難題に挑むことを望みませんでした。そして挑む姿勢を見せた数少ない企業も、複数のディストリビューションに対応するソリューションを提供することはできませんでした」と Rackspace 社のプロダクトマネージャ、Aaron Conklin 氏は述べています。

6 カ月後、Red Hat がクラウドサービスプロバイダ向けの値上げを発表した際、SUSE という選択が正解だったことが改めて明らかになりました。Rackspace 社のお客様の多く (特に中小企業) は価格に対して敏感でした。Rackspace 社は、RHEL の無料オープンソースバージョンである CentOS にお客様を移行する案を考え付きました。もちろん SUSE Manager は CentOS にも対応しています。

「SUSE は自社のディストリビューションだけでなく、CentOS などのサポートについても、自社の管理ツールや環境設定ツールを提供する姿勢を見せてくれました。SUSE は柔軟性を備えた理想的なソリューションプロバイダです」

スケーラブルな高可用性実装

Rackspace 社は新システムの導入と知識の伝授を SUSE スペシャリストサービスに依頼しました。現在 SUSE は、大規模拡張向けにカスタマイズされた新しい SUSE Manager 環境 (いわば、SUSE Manager のための SUSE Manager) を実装しています。Rackspace 社は SUSE Manager API を使用してハードウェア

の登録や削除を行ったり、お客様を異なるチャネルに移行するための独自ツールを統合したりしています。

計画されていた世界規模のデータセンターのうち 3 つ (米国、ヨーロッパ、アジア太平洋) が稼働を開始しました。残りは 2013 年秋に稼働開始予定です。各データセンターには 9 台のサーバがあります。SUSE Manager を実行する SUSE Linux Enterprise Server および SUSE Linux Enterprise High Availability (HA) Extension が 1 台ずつ、SUSE Manager プロキシサーバを実行するサーバが 4 台、そして Oracle Real データベースを実行するサーバが 3 台です。これらのサーバには、デュアルソケットの 6 コア Intel プロセッサおよび 64 GB の RAM を搭載した Dell 720 (大半)、810、820 を使用しています。

Rackspace 社の以前の環境ではスケラビリティに問題があったため、新しいデータセンターはそれぞれ、最初の段階で 30,000 のホストに対応できるように設計されています。Rackspace 社の Fanatical Support の要件に応じて、SUSE スペシャリストサービスは SUSE Linux Enterprise High Availability Extension、SAN ストレージ、マルチパス I/O、クラスタへの対応およびフェールオーバー用にカスタマイズされたスクリプト、Tomcat アプリケーションコンポーネント向けに最適化された JAVA メモリスタック、そして Taskomatic プロセスを使用して、中断の発生しない環境を構築しています。

Rackspace 社のパッチ管理サービスを利用するお客様はこの環境に統合され、Rackspace 社は以前のパッチ管理システムと似た SUSE Manager インタフェースを使用してサービスを提供します。

「SUSE を選んで非常に満足しています」と Rackspace 社の戦略的調達担当責任者、Tim Symchych 氏は述べています。

導入効果

Rackspace 社とそのお客様は、SUSE との関係性や SUSE ソリューションにより、次のようなメリットをすでに実感しています。

市場投入までの時間の短縮。 Aaron Conklin 氏は次のように述べています。「Rackspace 社のチームが Spacewalk を開発、調整、市場投入するには 18 カ月必要でした。しかし、SUSE Manager を使用して、SUSE スペシャリストサービスの協力を得ることで、導入期間を 1 年は短縮できたと思います」。また、Spacewalk という共通の基盤を使用していることから、SUSE Manager と Red Hat 管理システムはユーザインタフェースが似ているため、Rackspace 社の従業員はトレーニングを短期間で簡単に済ませることができました。

Rackspace 社とそのお客様のコスト削減。 Red Hat が値上げを実施したこともあり、SUSE の価格構造は Red Hat よりも低価格です。実際、Rackspace 社は Red Hat の新しいクラウド価

格と比べて、大幅なコスト削減を実現しています。加えて、SUSE はサーバパッチ / 管理を標準化するための統合 Linux 管理インフラも低コストで提供しています。

IT 環境の簡素化と容易なサポート提供。 SUSE Manager により、複数の Linux ディストリビューションのパッチ管理を行えるため、Rackspace 社が現在および将来にわたってお客様にサービスを提供するために必要となるパッチ管理システムの数を抑えることができます。その結果、Rackspace 社のサポートの生産性が向上し、単一の画面から複数の Linux ディストリビューションにサービスを提供できるようになります。

顧客満足度と競争力の強化。 Rackspace 社のお客様の多くは、2～5 年以上同社のサービスを利用しています。同社は高品質のサービスを低コストで提供することで競争力を獲得しています。SUSE との関係性および SUSE ソリューションにより、Rackspace 社は安定した価格のもと、

信頼性の高い環境で、高品質のパッチ管理サービスを 24 時間 365 日体制で提供することが可能になりました。

Conklin 氏は次のように述べています。「SUSE Manager with Expanded Support を本稼働してまだ 3 カ月しか経過していませんが、マーケティング活動もほとんど行っていないにもかかわらず、すでに新規の管理対象 / 専用クラウドワークロードの 50% 以上が、SUSE がサポートする CentOS を選択しており、エンタープライズクラスの SLA (サービスレベル契約) を犠牲にすることなく、Red Hat から移行し、コストを削減しています」

Aaron Conklin 氏は次のように総括しています。「Rackspace 社の目標は、自社のデータセンター、競合他社のデータセンター、そしてお客様の施設など、世界中に **Fanatical Support** を提供することです。当社にとって今後必要となるのは、さまざまな環境に対応できる SUSE Manager のようなツールなのです」

「SUSE を選んで非常に満足しています」

TIM SYMCHYCH 氏

Rackspace 社
戦略的調達担当責任者

www.suse.com



お近くの SUSE ソリューションプロバイダまたはノベル株式会社までお問い合わせください。

ノベル株式会社
〒162-0845
東京都新宿区市谷本村町 1-1
住友市ヶ谷ビル 12 階
<https://www.suse.com/ja-jp/>

SUSE
Maxfeldstrasse 5
90409 Nuremberg
Germany